

台風の接近に伴う農作物等の技術対策について

令和元年6月27日
農林水産部担い手支援課

【台風対策について】

現在、沖縄の南海上にある熱帯低気圧は台風になるものと見込まれており、その後、上陸する恐れもあることから、技術対策をお送りします。以下の事前対策を、台風接近前に余裕を持って行ってください。

事後対策等の作業は風雨がおさまってから行います。特に、水路や傾斜地においては台風通過後も洪水や土砂崩れのおそれがあるため、十分に注意しましょう。

海岸に近い場所などでは、塩害回避に事前に真水を準備しておき、降雨後に潮風が吹いた場合は、動力噴霧器等で出来るだけ速やかに大量の水を散布し、葉に付着した塩分を洗い流しましょう。

1 施設等

事前対策

- (1) ビニールハウスは、外周を見回り、押えのバンドでフィルムをしっかりとめ、窓、出入口は閉めて固定する。できれば風当たりが強い外側の棟などを補強する。また、被覆資材に損傷箇所があれば、直ちに補修する。
- (2) ガラスハウス等では、窓、出入口を閉めて、しっかり固定する。
- (3) ハウスの周囲に風で飛ばされるものがないように、周辺を片付ける。また、排水状況を確認し、排水溝の整備に努める。

事後対策

- (1) 破損した場合は、速やかに補修を行う。
- (2) 施設周辺に湛水している場合は、速やかに排水溝を掘り、排水に努める。
- (3) ハウス内に雨水が流入した場合は、できるだけ速やかに排水し、水が引いた後に、ベッドを整形するとともに中耕する。
- (4) ハウス内に雨水が流入する等により、内部が多湿になって病気が発生しやすくなるので、防除指針に従い殺菌剤を散布する。
また、根の活性が低下するなど薬害が発生しやすい状態にあるので気をつける。

2 露地野菜

事前対策

- (1) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水に備える。
- (2) ネギ、未成熟トウモロコシ、果菜・葉菜類など茎葉の被害により大きな減収や品質低下が予想される野菜では、
 - ア あらかじめ土寄せをして倒伏予防を行う。
 - イ 支柱強度や結束部分の確認をして弱い部分は補強をする。
 - ウ 防風網や不織布などでべたがけをして茎葉や果実の傷みを防ぐ（資材が飛ば

されないように注意し、台風通過後は速やかにはがす)。

(3) スイカ、メロンなどはトンネルが飛ばされないよう補強を行う。

事後対策

(1) 速やかにほ場の排水を図る。

(2) 栽培中の作物には、防除指針に従い殺菌剤を散布し病気の予防に努める。根の活性が落ちるなど、薬害が発生しやすい状態にあるので気をつける。

(3) 栽培中の作物では、土壌の表面が乾いてきたら、追肥用化成などを用いて追肥を行い、軽く中耕を行うことにより、生育の回復を促す。

3 果樹

事前対策

(1) ナシ（ブドウなどの棚仕立ての樹種もこれに準ずる。）

ア 多目的防災網の設置の有無にかかわらず、棚が上下して果実が落下するのを防ぐため、棚の所々に振れ止めを設置する。（棚から針金などたらし、重石をつけて棚が振れないようにする。重石は、事前にブロックや土を入れた肥料袋等を園内に準備しておく。）

イ 多目的防災網を設置してある園では、押え紐や控え紐（網が風で飛ばされないように、所々に網から引いてある紐）の補強を行う。

ウ 防風垣、防風網の補強整備をする。

エ 主枝、亜主枝、側枝を棚へ結束する。

オ 排水条件の悪い園では滞水しないよう整備する。

(2) 果樹全般

ア 支柱の取り付けを行う。主幹には、竹や丸太などで3方から支柱を取りつける。

イ 主枝、亜主枝、側枝も果実が大きくなって下がってきているので、支柱を取りつける。

ウ 水田等排水の悪い園では、滞水しないようはけ口をつくっておく。

事後対策

(1) ナシ

ア 葉の損傷の激しい園では、輪紋病の多発生が予想されるため、台風通過後、できるだけ早く殺菌剤を散布する。

イ 落果した果実は早めに処分する。

ウ 幹や枝に損傷を受けた場合は、胴枯れ病の発生要因となるので、傷口は塗布剤で保護する。（例：トップジンMペーストなど）

(2) イチジク、キウイフルーツ、ブドウなど

葉の損傷の激しい園では、殺菌剤を散布し、病害感染を予防し葉を健全に保つようにする。

(3) 果樹全般

ア 樹が倒伏したものは、無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せし支柱を立てる。

イ 園の排水に心がけ、滞水した場合は速やかに排水を図る。

ウ 多目的防災網の防風ネットが破損した園では、ただちに修理し、次の災害に備える

エ 散布する殺菌剤は「農作物病虫害雑草防除指針」の6／下～の防除法を参照。収穫期を控えた果樹は、特に農薬の収穫前使用日数に注意する。

4 露地花き

事前対策

- (1) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水に備える。
- (2) 支柱の打ち増しやフラワーネットの点検・補強を行う。
- (3) 小ぎく・アスター・けいとう・ひまわりなど、茎葉の被害により大きな減収や品質低下が予想される花きでは、防風ネットを張る。

事後対策

- (1) 風により折れた枝や株は整理し、倒伏した切り花類は枝の曲がらないうちに無理のない範囲で早く立て直し土寄せする。
- (2) 数時間滞水した苗物や鉢物は、その後乾燥ぎみに管理する。また、多湿により病気が発生しやすくなるので、防除指針に従い殺菌剤を散布する。
- (3) 育苗中のものや定植直後のもので冠水被害を受けた場合、速やかに汚れを洗い流し、回復に努める。なお、回復の見込みがない場合は、除去し、苗があれば定植し直すか、再度播種準備を行う。

5 水稻

事前対策

- (1) 排水路の詰まりの点検・補修を行い、冠水や滞水に備える。

事後対策

- (1) 水稻の生育は幼穂形成期期～穂ばらみ期にあり、長期間の冠水（株全体が水につかる事）した場合は、水温が高いほど濁水によるほど被害が大きくなるので、早急な排水を行う。ただし、(3)の理由から、完全に落水してしまうのではなく、湛水状態とする。
- (2) 白葉枯病の常発地では、浸水（葉鞘や穂が水面から出ている事）、冠水した場合に発生する恐れがあるので、薬剤防除を行う。
- (3) 台風の通過後に乾燥した風が吹いた場合には、稲体の水分が蒸発し、急性萎凋症状が発生する恐れがあるので、湛水し水分を供給する。

6 大豆

水田転換畑等では、排水溝を確実に排水路につなげる事や、畦畔を切る等で早急な排水対策を行う。

7 落花生

台風後に黒渋病が発生しやすいので、よく観察し、防除を行う。

8 畜産

事前対策

- (1) 畜舎の周囲に風で飛ばされるものがないように、周辺を片付ける。また、排水状況を確認し、排水溝の整備に努める。
- (2) 停電の発生に備え、発電施設がある場合は燃料の準備、試運転を行う。また、停電時の畜舎換気・飲水確保等の準備に努める。

事後対策

- (1) 台風通過後に、気温上昇の恐れがあるので、畜舎内温度に注意し、換気に努める。
- (2) 停電の発生状況に注意し、停電時は早めの対応に努める。